

# とらうべ通信

2017. 新年度号  
No.82

発行所：(社)香川県助産師会 高松市春日町 1176  
発行責任者・眞鍋 由紀子 電話・087-844-4131

FAX・087-844-4130

## 会長挨拶

会長 眞鍋 由紀子

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、穏やかなお正月をお迎えのこととお慶び申し上げます。

丁酉年の幕開けを迎え、一年の計について考えられたことと思います。

丁・酉年 物事が頂点まで極まった状態で、実りある年とすることが出来るとあります。

ここで一区切りつけ、更に運氣を呼び込みステップアップできる一年に出来たらいいですね。皆様健康に留意して自分のペースで歩を進めていきましょう。

さて、昨年はここ2~3年来の懸案事項だった災害時における周産期周辺の助産師の活動について、10月13日に香川県と協定を結ぶことが出来ました。基本的な体制として保健福祉事務所単位で、チームを組み助産師が孤立しないような体制、助産師が助産師を支援出来る体制を組んでいます。本年は発災を想定した訓練を基本に、助産師がどう行動すべきか夫々に体得すべく、研修を重ねていく予定であります。

また、香川県助産師会が受け持っている事業の一つである妊娠・出産サポート事業に関して、毎月必ず相談事としてあげられる課題の一つである、思いがけない妊娠で継続していくことに悩みながらの相談があります。妊娠したら産むか中絶かの選択をしなければなりません。どちらの選択にしても当事者にとっては、重い選択になるので支援が必要であり、その人に寄り添う支援ができたかと考えています。

妊娠期からの切れ目のない支援体制に載せていくには、多くの関連機関が協調していかななくては効果を期待することが出来ません。どこがどう調整していくのか、命に係わる事だけに慎重に事を運びたいと考えます。

そして今年は「プレ大人たちへの種まきプロジェクト」で、妊娠・出産にいちばん近い女子大生等にターゲットを絞り、妊娠好機・卵子の寿命とは・出産場所にはどんな特徴があるのか・自分は何処で産みたいのか・母乳育児するには等について、産む人が自分の問題としてしっかりとらえて、自分らしいお産をしたいと考えてもらえる、助産師にしかできない事業を立ち上げたいと考えています。興味がある人は是非力をお貸しください。

夢で終わらせないで、ぜひ行動に移していけたら良いですね。多くの方のご意見をお待ちしております。

本年も昨年と同様多くの会員の皆様のご協力・ご支援を賜ります様、よろしく願いいたします。



## 第 20 回 「いいお産の日」 高松会場

高松会場実行委員長 佐々木 三千代

毎年高松会場では、いいお産の日は 11 月 3 日文化の日の祝日に行われています。

今年は第 20 回目、記念事業となる内容をとということでしたが年々参加者の減少があり悩みの種でもありました。当日までに実行委員会を 4 回行い、その会では活発に意見が交わされ、その中でも「500 円の参加費を出してでも参加したいといえる内容でないといけない」という意見が今までになかったものだと思います。その結果、記念写真をプレゼントすることになり準備していた整理券があつという間になりました。担当の方々ご苦労様でした。



記念事業の内容は、ママさんシンガーの“れおんさん”のピアノライブ・助産師による劇を行いました。コンサートでは参加者とれおんさんが「だいじょうぶ体操」を一緒に歌い、会場は一体感を感じることができ楽しい様子でした。そして、日頃の育児疲れを吹き飛ばしてくれるくらい素敵な歌声にうっとりすることができました。また、育児に奮闘するゆう子ママとみっちゃん親子の様子を描いた「一人で悩まないで！」の寸劇は会場から笑い声が聞こえ「劇団助産師」の皆様の演技は素晴らしかったです。出産の時だけでなく出産後も近くに助産師がいること、いつでも相談できるということを伝えることができたと思います。

子育て支援課の講演もまた助産師による劇と関連しての内容のため、全体的にまとまりのあるものになったと思います。講演に参加する家族も多くみられ急きょ椅子を準備するほどでした。

実行委員会をはじめ、当日協力していただいた施設スタッフ、助産師会の助産師の皆様、各学校の学生さん、子育て支援課の方々の協力を本当に感謝しております。

参加家族：108 組 延べ 284 名（昨年延べ 155 名）  
実行委員及び施設協力員・学生 115 名（昨年 115 名）  
参加合計人数 399 名



## 第20回 『いいお産の日』 西会場

西会場実行委員長 石原千恵子

11月6日(日)岡田コミュニティセンターにて、香川県子育て支援課の協力を得て75家族160名の参加者を迎えることができました。当日は天候も安定し、寒さを感じる事なく過ごす事ができました

嬉しいことに、開場時刻には次々と来場者があり、本番を迎えたワクワク感でいっぱいになりました。

メインイベントでは、まず、れおんさんの歌声が参加者を和

ませ、勇気づけてくださいました。続く助産師による寸劇は迫力ある名演技に拍手も起こり大成功でした。また、数々の体験コーナーは例年通り人が絶えることなく利用されるブースもあり、好評でした。沐浴体験では、一家族(妊婦・夫・祖母)の三人が各々体験を希望する例もあり、孫育てを楽しみにしている方たちにも積極的に参加してもらえる工夫が必要と感じました。私たちは妊娠・出産・子育てのあらゆる場面で信頼され、身近な存在であることを再認識することができました。これからも「いいお産の日」には、自分が満足できるお産について考えたり、少しでも子育てを楽しく感じてもらえる交流の場として続けていければと考えます。



最後に、このイベントに関わってくださった皆様、私の気付かないところでも臨機応変に対応してくださり感謝しています。ありがとうございました。



## お知らせ

10月13日、大規模な災害が起きた際、周産期周辺のケアを行えるよう香川県と支援協定を結びました。

香川県庁で浜田知事と、香川県助産師会真鍋会長が協定書にサインしました。協定では、南海トラフ地震など大規模な災害が発生した場合、助産師会は県の要請で避難所に助産師を派遣し、出産のサポートや、妊婦や乳幼児が安心して生活できるようケアを行います。また、乳幼児がいる家庭を訪問し産後の健康指導なども行うことになっています。

たくさんの会員が災害時協力員として登録し、活動してくださることを期待します。

# 研修会報告



## 周産期の精神疾患について

報告) 中橋尚子

12月4日、今年4月に古新町で「こころの診療所」を開業された心のケアを専門とする嶋宏美先生の研修会がありました。

はじめに生涯罹患率の男女差（単極うつ病・約2倍、双極性障害I型・5倍、パニック障害・1.6倍等）について、如何に女性に心の病気が多いか？ それは女性の脳が男性より視覚・聴覚及び言語情報の処理能力が大きいゆえに、ちょっとした変化を察知する（いわゆる空気が読める！）ことにより感情的なストレスに弱い、という生物学的な面からの説明がありました。その中で「精神科領域では“男性はアスペルガーと思え”と言われます。」との先生の言葉に大きく頷いたのは私だけではないはず・・・このように感情的ストレスに弱い女性にとって、性ホルモン変化が著しい時期にあたる産後のうつ病発症頻度は15~20%と高く、予防や早期発見が重要なこと、うつ病診断のための二質問法（例・食欲はありますか？ではなく、“以前と比べて”ご飯は美味しいですか？と聞く）や投薬治療等についてわかりやすく説明していただきました。

また、対人関係上のストレスは自分が期待したとおりの役割を相手が果たしてくれない「役割期待のずれ」ととらえ、それに対する効果的なコミュニケーション技法は、訪問の場でも取り入れていけるよう努力したいと思いました。

外はあいにくの雨模様でしたが、嶋先生の快活な口調に参加者も話しに引き込まれ質疑応答も活発、私も一度も睡魔に襲われることなく有意義な3時間を終えることができました。

### ▶▶▶▶▶1, 2, 3月の研修会 行事のお知らせ▶▶▶▶▶

日時	研修会・行事・講師等	場所
1月8日(日) 9:30~	新生児蘇生法 スキルアップコース★ インストラクター：竹内美由紀、下川智佳代	いのちの応援舎
1月29日(日) 12:00~	第9回香川県小児保健協会研究会 シンポジウムテーマ「食育・かがわの子どもたちの食事を考える」	香川県立文書館 2階視聴覚ホール

★スキルアップコース受講者募集中!! 新生児蘇生法スキルアップコースはNCPR修了認定者を対象とします。継続学習支援のためのコースで3時間の時間でA・Bコース認定者で有効期限内の終了認定者でなければ受講資格はありません。必ず、申し込み時に終了認定番号と有効期限の提出が必要です。講義・実習・アンケートがあり、アンケートの提出が受講証明になり、試験はありません。  
(受講料：助産師会会員 3000円 非会員 5000円)



- ・事例検討会：2月2日（木）10:00~
- ・第5回理事会：2月10日（日）13:30~
- ・ほっと相談室リーダー会：2月14日（火）
- ・すこやか会：3月5日（日）10:00~
- ・第6回理事会：3月5日（日）13:30~

